

家畜保健衛生所情報

令和6年11月13日

牛飼養農家
の皆様へ



国内初！福岡県・熊本県の牛農場でランピースキン病発生

令和6年11月6日、10日に福岡県で、また11月9日に熊本県の乳用牛飼養農場において、**国内初となる**ランピースキン病の発生が確認されました。本病は昨年10月に韓国で発生後、今年8月にも近隣国の韓国・台湾で発生が確認されており、日本国内への侵入リスクが高まっていた状況です。本病は感染牛の移動のほか、蚊、サシバエ、ヌカカ等の**吸血昆虫（ベクター）**により感染拡大します。牛飼養農家の皆様は、飼養衛生管理を徹底するとともに、平時より害虫対策を講じていただきますよう、よろしくお願いいたします。また、本病は**全身の皮膚の結節**や発熱、乳量の低下等の症状を呈します。早期発見のために毎日しっかり牛の状態を観察し、本病を疑う症状を確認しましたら速やかに家畜保健衛生所までご連絡ください。

発生・感染拡大予防のポイント

- ☆農場外へ移動させる前の健康観察、感染が疑われる牛の隔離
- ☆蚊、ヌカカ、サシバエ等の吸血昆虫対策（殺虫剤の散布等）
- ☆他の畜産関係施設で使用した器具等を持ち込まない
- ☆注射針、人工授精用器具等の体液（生乳を除く）が付着する器具は1頭毎に交換または消毒を実施
- ☆畜産関係者の海外渡航の自粛、関係者以外の農場への立入禁止

【農林水産省】ランピースキン病に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/lsd.html>



症状・侵入防止対策については裏面もご確認ください！

 大阪府家畜保健衛生所 〒598-0048 泉佐野市りんくう往来北1-59
 TEL 072-458-1151 FAX 072-458-1152

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大



疑わしい場合は
直ちに連絡！

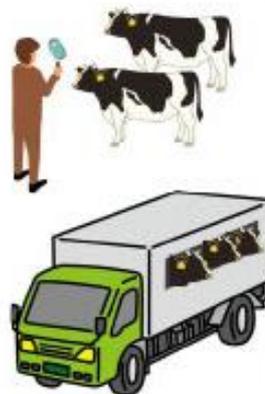


写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
(State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

ランピースキン病の侵入防止対策

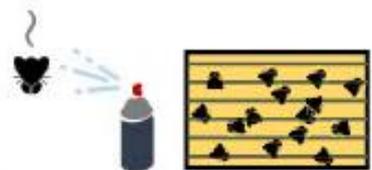
01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、
出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、
粘着シート等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。